

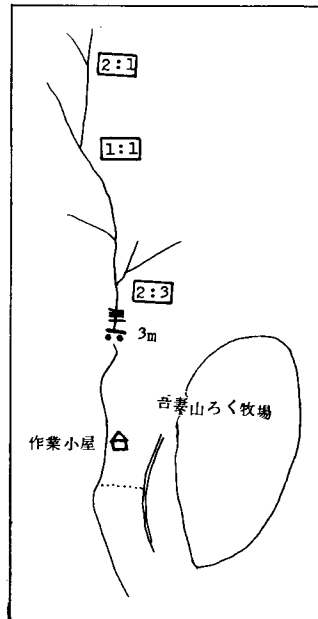
冷水沢，砥沢（作図：）

◆天気（快晴）

元小屋川（下降）

一九八〇年九月十五日

ガスが出てきて、現在地が充分に確認ができないまま、砥沢に向けてヤブこぎに入る。（記・）
 （タイム）
 出合八〇〇—終了九一一〇



元小屋川（作図：半）



海上沢

九〇四^ノピーク上から降りる方向をたしかめる。西へ下って沢の源流をさがす。源流をみつける。この時一時四〇分。あたりはまるで湿地帯のようなぬかるみだ。沢ぞいに下る。本流らしき沢に出る。ここで昼食。

これより沢を登る。滝はまったくない。ヤブこぎに近い沢だという印象強し。ヤブに前をふさがれる所まで行く。それ以上は進みにくいので戻ることにする。

三〇分位下って八^ノのナメに会う。そして三^ノの滝。作業小屋らしいものがある。下降を予定した沢ではなく、元小屋川であることに気づく。

一三時三〇分林道へ出る。ここから大沢駅を経て峠駅までは長い道のりであった。(記・)

(タイム)

九〇四ピーク一・三〇—元小屋川出合一・四〇—最高到達点二・二五—作業小屋一三・三〇—峠一五・三〇

海上沢

一九八〇年九月十四日

◆天気(晴)

大沢駅でお茶をごちそうになってから道路を海上沢まで歩く。三〇分程で羽黒川との出合に着く。出合にF1(七^ノ)がそそぎ入っている。

最初は林道を歩く。林道が沢から離れる所から沢に入り、砂防ダムをひとつ越えてわらじをつける。すぐにF2(二・五^ノ)。これをすぎると石で積んで作った小さな砂防ダムがある。

林道が沢を横切る。沢には変化なく、ヤブがかぶさっている。沢を見ながら林道を歩く。ナメが見えてき